

# 科研費申請説明会

OUS DOHTA

科研費の獲得に向けて  
— 始めること、続けること —

工学部・智能機械工学科

堂田 周治郎

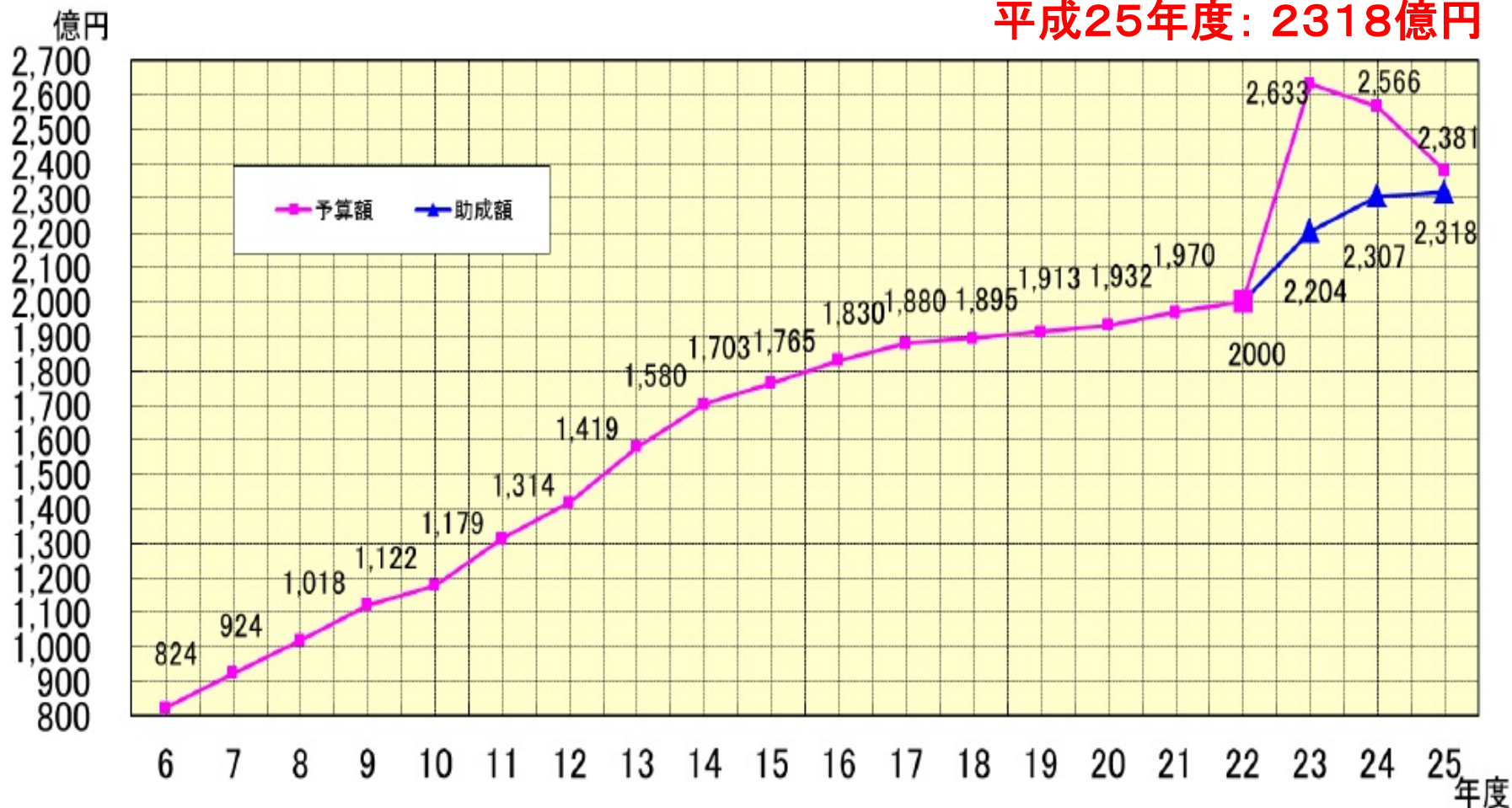
平成25年9月26日(木)

# 科研費の助成額・予算額

OUS DOHTA

【図1 科研費の予算額・助成額の推移】※平成22年度までは予算額と助成額は同額。

平成25年度：2318億円

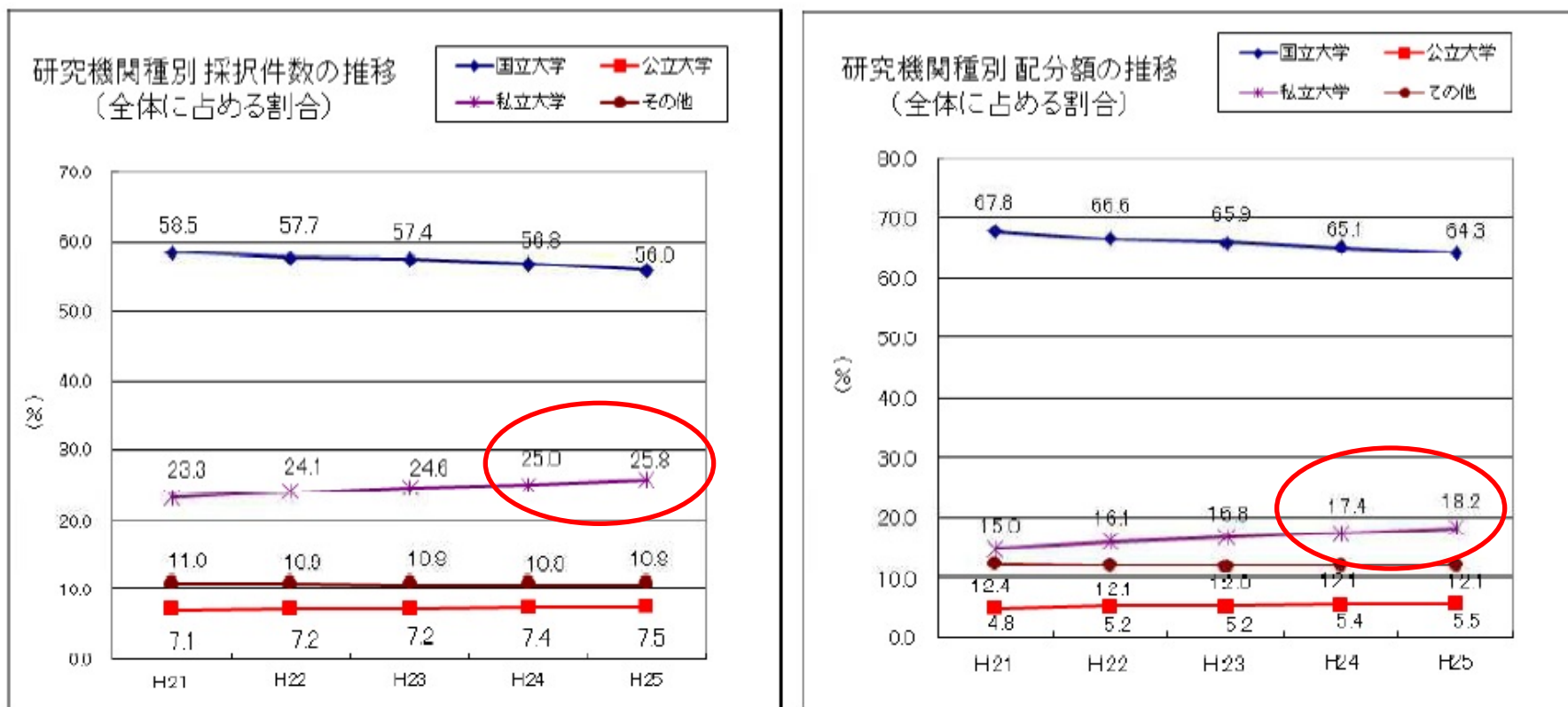


# 研究機関別の応募件数など

OUS DOHTA

平成24→25年度 私大の採択件数:25→25.8%、配分額:17.4→18.2%

【図3 研究者が所属する「研究機関」種別に見た配分状況の推移】(新規+継続)



# 国公立大の教員数と応募件数

OUS DOHTA

【表 2 大学教員数と科研費への応募件数】（新規＋継続）

区 分	大学教員数 (①)	応募件数 (②)	比率 (②/①)
国立大学	62,825	68,972	109.8%
公立大学	12,876	10,354	80.4%
私立大学	101,869	38,671	38.0%
計	177,570	117,997	66.5%

岡山理大

268人

128件

47.8%



# 平成25年度 科研費採択上位大学(新規+継続分)

OUS DOHTA

(金額単位:千円)

	機関名	採択件数	配分額 (直接経費)	配分額 (間接経費)	合計
1	東京大学	3,519	15,292,593	4,587,778	19,880,371
2	京都大学	2,821	9,906,403	2,971,921	12,878,324
3	大阪大学	2,579	8,094,850	2,427,570	10,522,420
4	東北大学	2,519	7,369,450	2,210,835	9,580,285
5	九州大学	1,860	5,409,762	1,622,929	7,032,691
6	北海道大学	1,735	4,615,600	1,384,680	6,000,280
7	名古屋大学	1,642	5,217,800	1,564,440	6,782,240
8	筑波大学	1,197	2,929,800	878,940	3,808,740
9	広島大学	1,136	2,355,010	706,503	3,061,513
10	神戸大学	1,047	2,312,961	693,888	3,006,849
11	慶應義塾大学	961	2,486,300	745,890	3,232,190
12	早稲田大学	851	1,965,000	589,500	2,554,500
13	岡山大学	843	1,706,100	511,830	2,217,930
14	東京工業大学	826	3,445,600	1,033,680	4,479,280
15	千葉大学	816	1,713,800	514,140	2,227,940
16	金沢大学	727	1,363,100	408,930	1,772,030

# 近隣大学 科研費採択状況

OUS DOHTA

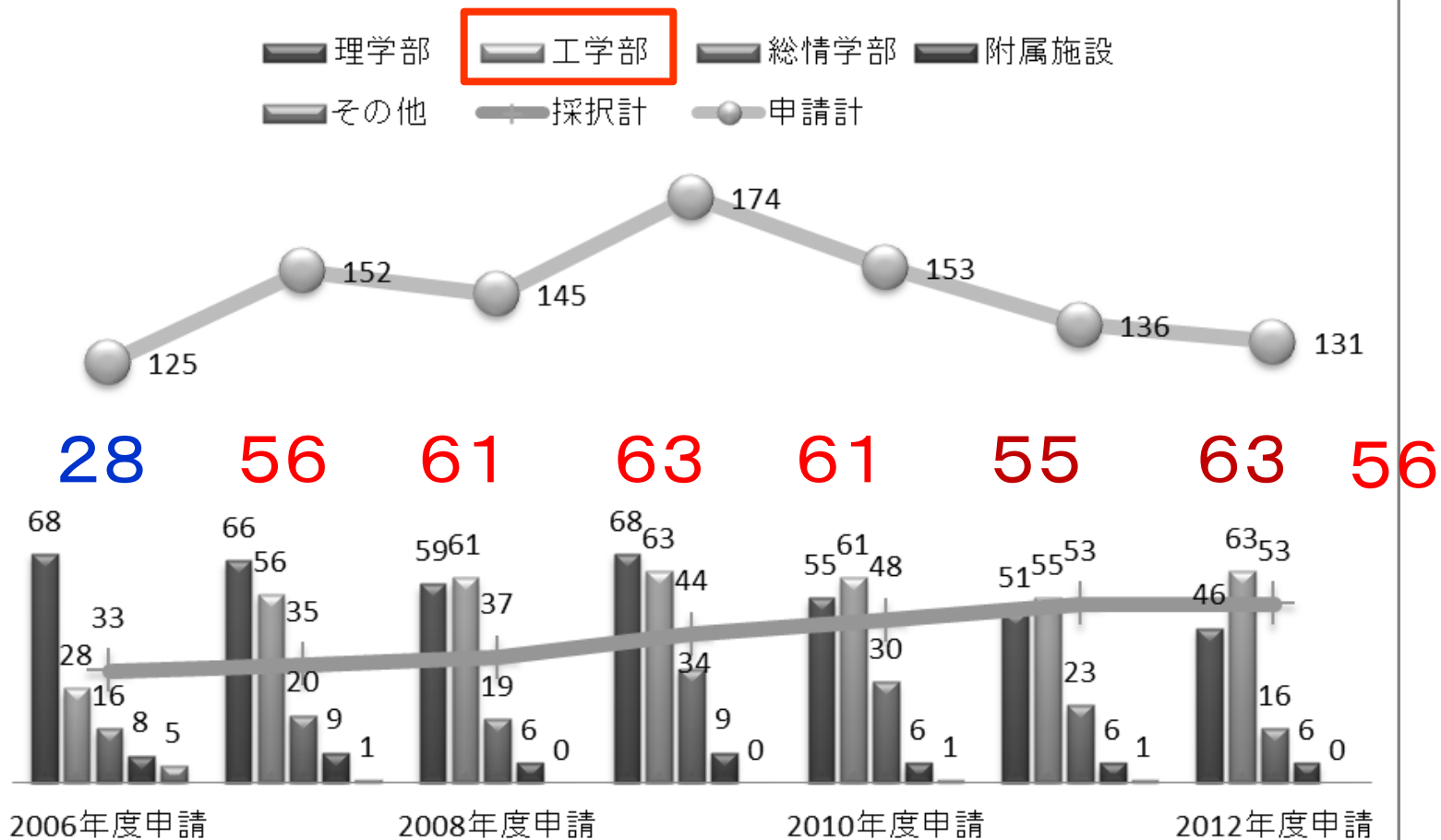
平成25年度 採択件数・配分額(新規+継続)

	大学名	学部生(人)	採択件数	配分額(千円)	配分額/学生(円/人)
1	高知工科大学	2,056	56	125,500	61,041
2	山口東京理科大学	653	12	16,700	25,574
3	徳島文理大学	4,558	59	99,000	21,720
4	金沢工業大学	7,043	97	126,700	17,989
5	福山大学	1,650	28	29,600	17,939
6	近畿大学	31,216	363	517,600	16,581
7	福岡大学	19,719	200	317,100	16,081
8	摂南大学	7,561	86	97,700	12,922
9	甲南大学	9,316	69	110,900	11,904
10	岡山理科大学	5,848	47	67,400	11,525
11	広島国際大学	4,582	48	52,300	11,414
12	大阪工業大学	7,168	62	77,200	10,770
13	広島工業大学	4,577	30	42,800	9,351
14	福岡工業大学	4,160	35	37,000	8,894
15	広島修道大学	5,956	30	33,000	5,541
16	九州産業大学	10,807	37	34,500	3,192

# 科研費申請数の推移

OUS DOHTA

科研費 学部別及び総申請数・採択数(継続含む)の推移



# 学科別 応募率ランキング (新規+継続)

順位	昨年	所属	教員数(※)	応募数	応募率(%)
1	1	生体	12	11	92
2	5	臨床	14	12	86
3	2	知能	13	10	77
4	6	化学	15	9	60
4	9	生化	15	9	60
6	4	応化	17	10	59
7	3	建築	12	7	58
8	7	情工	14	7	50
8	7	情処セ	2	1	50
10	11	機シ	15	7	47

※教員組織表(学内)用がベース。助手は除く。学部移行は移行後に含む。



# 採択された例

OUS DOHTA

- 1) 同じような内容であるが、**続けて申請**すると採択された。但し、図などは綺麗にした。
- 2) 次回、**研究内容を発展**させると、再び採択された。
- 3) **最初はだめだったが**、何回か申請していると採択された。

**あきらめず、改善しながら、  
継続して申請することが重要！**

# 過去のアドバイスから(1-1)

OUS DOHTA

## <全体としての心得>

- 1) 審査員は必ずしもその分野全体に精通しているわけではないので、なるべくわかりやすく書く。
- 2) 申請書の作成法は重要ではあるが、それ以前に研究内容自体が充実していなければならない。
- 3) 採択に向けての強い意欲をもって申請書を作成することが重要である。その姿勢が審査員に伝わる。
- 4) 日頃、学会や研究会によく顔をだして、同分野の研究者に自分の仕事をよく認知してもらっておくことも重要である。

## <作成上の注意事項>

- 1) タイトルは内容を的確に表し、かつ、わかりやすいものであること。英字や、わかりにくいカタカナ語の使用はさける。

# 過去のアドバイスから(1-2)

OUS DOHTA

- 2) その研究によってどのような成果が期待されるのかを明確に書く。これまでの実績も必ず書く。
- 3) 細かい字で紙面一杯に書かない。余白が多すぎるのはよくないが、小さな字でびっしり書くのはもっと良くない。
- 4) 誤字、脱字、不自然な字体の変化などは**絶対にあってはならない。真剣さに欠ける**という印象を与える。
- 5) カラーや太字を使用して強調すべきところは強調する。しかし、それらを多用して、ごてごてした紙面にするのはよくない。
- 6) できるだけ**図を入れて**わかりやすく説明する。専門家に見せるという姿勢ではなく、**専門外の間でもわかるように**書く。
- 7) 作成を終えたものは、すぐに提出するのではなく、何度も文章を推敲する。できれば**第三者に通読してもらおう**(内容を理解できる人が望ましいが、必ずしもそうでなくてもよい)。

# 過去のアドバイスから(2)

OUS DOHTA

- 1) 申請書作成要領を十分に読む
- 2) **タイトルは重要**
- 3) 矛盾のない一貫性のある申請書  
タイトル、目的、計画、方法、経費など キーワードの設定
- 4) **審査する立場になって書く**  
読みやすさ・・・字の大きさ、強調(フォント、アンダーライン)  
濃淡(色ではない)、図表の活用  
明解さ・・・要求されている項目がどこに記述されているか？
- 5) **記入スペース**を十分に活用
- 6) **審査結果の内容をフィードバック**して書く。
- 7) 一つの図(表)が印象を良く(強く)することがある。
- 8) **十分に推敲**する。誤字、脱字、文末統一、フォント統一

# 過去のアドバイスから(3)

OUS DOHTA

- 1) **研究目的が明確**である、目的を達成するための計画が整っていて、どこまで達成できるか明確に示されている。
- 2) 国内外の研究成果を把握する。
- 3) 研究が独創的である。
- 4) 計画を実行するための業績が整っている。
- 5) 研究成果が、学問分野にどのように貢献できるか明確に示されている。
- 6) 申請する経費は適切であるか、費目は問題ないか。
- 7) 審査員にわかりやすい文章にする。
- 8) 見出しを付け項目別に分ける。  
特に、**目的はわかりやすく明確に**
- 9) 曖昧な表現は避け、ある程度断定的な表現にする。
- 10) 図、表、フローチャートを使用しわかりやすい計画書
- 11) 研究の緊急性を強調する。

# まとめ

OUS DOHTA

- 1) 科研費や助成金申請は**教員の義務**である。
- 2) 申請書の作成は**研究活動を活性化**する。
- 3) 不採択でもあきらめず、指摘事項に従って改善しながら、**継続して申請**することが肝要。
- 4) 申請経験がない教員も**勇気を出して申請**する。
- 5) 業績の少ない教員は**共同申請**も考える。
- 6) **申請書は読む人のことを考えて書く。**